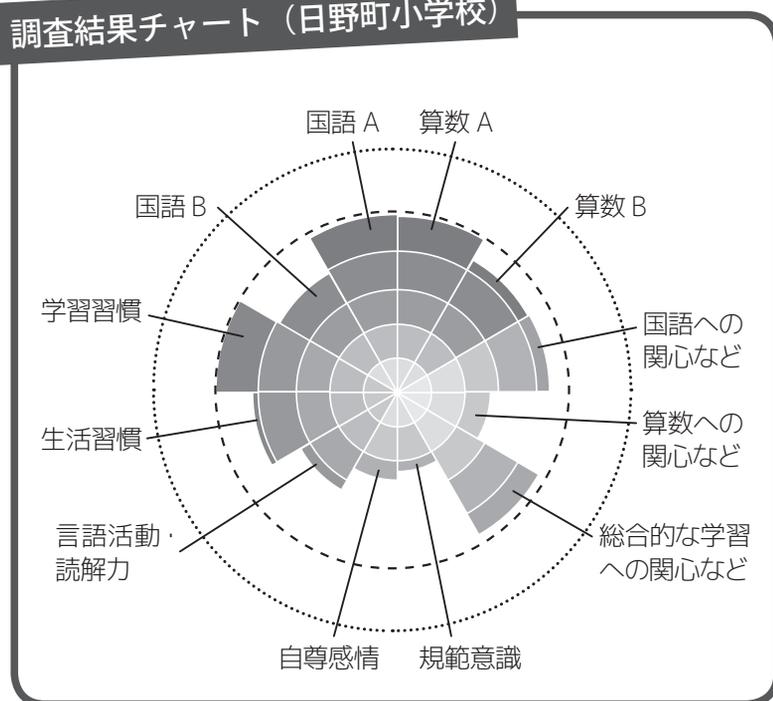


全国学力・学習状況調査の結果をお知らせします。

児童、生徒への指導の充実や、学習状況の改善などに役立てるため、全国の小学6年生と中学3年生を対象に、「全国学力・学習状況調査」を今年4月に実施。国語、算数・数学の問題A（知識に関する問題）と問題B（活用に関する問題）の調査と、質問紙調査（生活習慣、学習意欲・環境などの調査）が行われました。

学テから考える 子どもたちの三ライ。

調査結果チャート（日野町小学校）



調査結果チャートの見方

- 各教科のAおよびBは正答率、ほかの項目は質問紙調査での肯定的な意見を、全国平均と比較して表しています。
- 中央の-----線は全国平均です。-----線より外側に出ている項目は全国平均以上、-----線より内側は全国平均未満を表しています。外に広がっている項目ほど、正答率が高い、肯定的な意見が多い結果を表しています。

part 1 小学校では

国語、算数ともに、基礎的・基本的事項はほぼ身に付いているものの、活用する力に課題あり。

国語、算数とも、A問題ではほぼ全国平均正答率と同率であったものの、B問題では大きく下回る結果となっています。

国語では、A問題で、全国平均正答数を上回っている児童が6割以上いますが、A問題、B問題ともに平均正答数を上回った児童は約2割に止まっています。

算数においても、A問題では、6割以上の児童が平均正答数を上回っているものの、A問題、B問題ともに平均正答数を上回った児童は3割弱に止まっています。

A問題では平均正答数を上回っているにもかかわらず、B問題では平均正答数を下回った児童が、国語、算数ともおよそ4割おり、B問題で悩んでいる活用する力を身に付けるところに課題があると言えます。

学習習慣が身に付いている一方で、規範意識、自尊感情の醸成に課題あり。

質問紙調査では、肯定的な回答が全国平均を5%以上上回っている項目数が7項目しかない一方で、5%以上下回っている項目数は43項目と全体の項目数の半数以上あります。また、肯定的な回答の割合が8割を超える項目数も、全体の4分の1に止まっており、肯定的な回答をしている児童が非常に少なくなっています。

学習習慣は定着してきつつありますが、規範意識、自尊感情、学習に対する関心・意欲・態度の醸成には、課題があります。



課題解決に向けた取り組みが求められる

part 2 中学校では

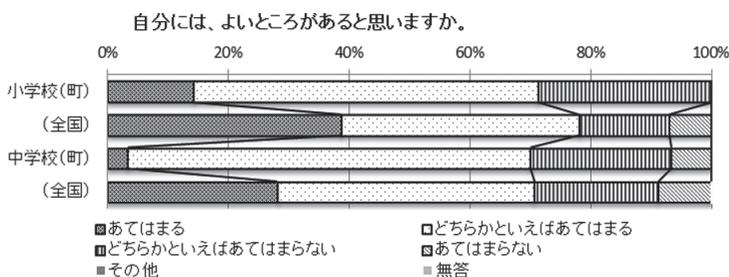
国語、数学とも、平均正答率は全国平均並み。しかし、二極化の傾向も。

国語では、A問題、B問題ともに、全国平均正答率を若干下回っています。しかし、A問題、B問題とも、平均正答数を上回っている生徒が半数以上おり、A問題、B問題ともに平均正答数を上回った生徒も、半数を超えています。一方で、A問題、B問題ともに平均正答数を下回った生徒が3割程度おり、二極化もみられます。

数学では、A問題では平均正答率を若干下回ったものの、B問題では若干上回る結果となっています。しかし、A問題、B問題ともに平均正答数を上回った生徒が約4割であるのに対し、A問題、B問題ともに平均正答数を下回った生徒は5割弱おり、学力が定着している生徒とそうでない生徒とが分かれています。

小学校6年時（平成26年度）と比較すると、全国平均正答率との比較ポイントが、国語Bで2ポイント、数学Aで1ポイント、数学Bで3ポイント上昇していることから、この3年間で国語、数学の力を伸ばしてきていることが伺えます。

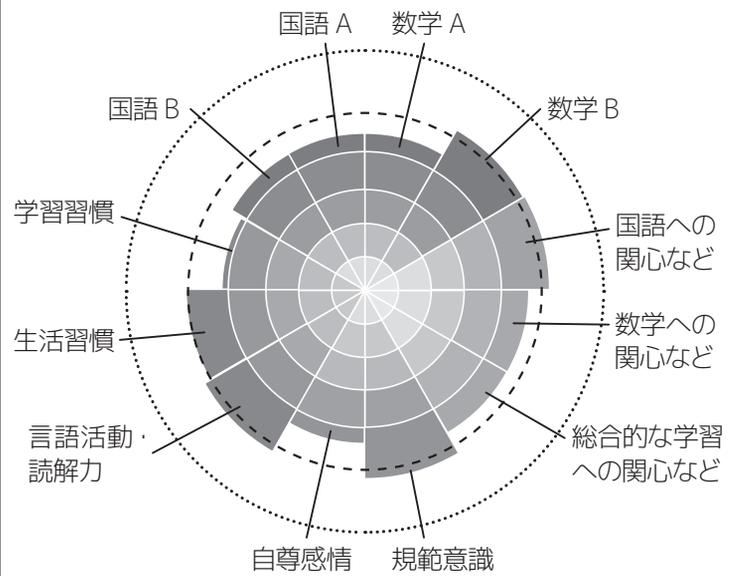
将来への希望を持たせる取り組み、
家庭と連携した生活習慣の改善が必要



小学校、中学校ともに、「自分には、よいところがあると思う」児童、生徒の割合が、全国平均より若干低くなっています。また、「将来の夢や希望を持っている」割合も全国平均以下であり、自己肯定感の伸長や将来への展望を持たせることができるような取組の充実が望まれます。

家庭での生活習慣に関わって、「2時間以上、テレビを見る」児童、生徒の割合が、全国平均よりもかなり高くなっており、家庭との連携のもとでさらなる生活習慣の改善を図っていく必要があります。

調査結果チャート（日野町中学校）



学習に対する関心・意欲・態度、規範意識などは育ってきています。

質問紙調査では、肯定的な回答が全国平均を5%以上上回っている項目数が28項目と、5%以上下回っている項目数の2倍となっています。また、肯定的な回答の割合が8割を超える項目数も、4割を超えており、肯定的な回答をしている生徒が多くいます。

part 3 課題となる部分

小学校、中学校とも、学級全体として十分な力を身に付けているとは言えない状況にあります。中でも、A問題、B問題ともに正答数の少ない児童、生徒が若干名おり、補充学習等、個別対応の充実が求められます。

小学校では、自分の考えを表現・説明する力、家庭学習の定着が課題。

小学校では、国語、算数ともA問題は全国平均以上ですが、B問題はそれに達していない割合が高くなっています。

また、国語、算数とも、「最後まで解答を書こうと努力した」児童の割合は低く、また、「800～1200字の感想文などを書くことは難しい」「自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しい」と答える児童の割合は高くなっています。

これらのことから、自分の考えを表現する力、説明する力が身に付いていないことが考えられます。また、平日に「家庭での学習を1時間以上している」児童の割合が低く、家庭学習の定着に、まだ課題があります。